

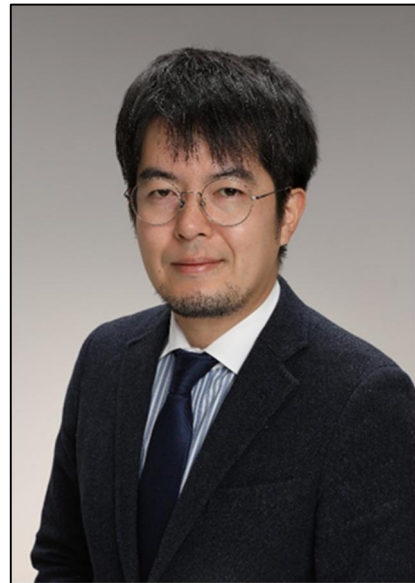


「中東地域情勢研究会」メンバー、小泉 悠 東京大学先端科学技術研究センター特任助教の講演会を行いました

2021年5月13日、東京大学先端科学技術研究センターの小泉 悠特任助教による、「脱炭素社会の資源大国、現代ロシアの軍事戦略 –21世紀における軍事力の価値」と題した講演会が Teams 上で開催されました。

小泉特任助教は、INPEX ソリューションズが東京大学先端科学技術研究センター(RCAST)の池内恵教授の研究室と開催している、「中東地域情勢研究会」のメンバーであり、日本では数少ない、ロシアの軍事・安全保障政策の専門家として、テレビにも多数出演されています。

ロシアに関する著作も多く、一昨年の著書『「帝国」ロシアの地政学』では、第41回サントリー学芸賞を受賞されています。また今回の講演の直前には、現代ロシアの軍事戦略とハイブリッド化した現代の戦争論、またこの軍事戦略から見える対外政策等について、最新の研究成果をまとめた著書となる『現代ロシアの軍事戦略』を、ちくま新書から出版されています。



ロシアは、東では日本の隣国である一方、中東諸国にとってはシリア内戦へ軍事介入を行う国であり、さらには OPEC プラスのパートナーであるなど、複雑な関係を有しながら中央アジアを挟んで向き合う近隣の大国です。当日の講演では、新著の内容に触れながら、かつての超大国ソ連の後継者ロシアの等身大の姿、経済的には GDP 世界第10位の国でありながらも、現代の国際政治に影響力を持ち続けようとするロシアの戦略と、「ハイブリッドな戦争」の実態が語られました。

参加者からの感想

講演後の参加者へのアンケートでは、参加者が社内のみであったため、参加の動機についての質問には、「業務を問わず関心のあるテーマだから」という回答が多く、ロシアと言う国への関心の高さがうかがえました。

講演への感想として、

- | 現在のロシアは予算・規模的には巨大軍事大国では無かったことを知らなかったのが意外。
- | ロシアに絡めた関係各国の軍事事情を伺うこと出来て大変興味深かった。
- | 普段の業務や生活で接点の少ないロシアの軍事政策と、脱炭素社会への対応を含むエネ



ルギー政策に関する情報と考察を拝聴し、今後の勉強・議論の動機が得られた。

- | 旧ソ連圏では事業を行ううえで困難な状況が続いていること、業務の遂行には石油業界のみならず、政治・経済・軍事などの複合的な知識が必要であることが印象付けられた。
- | エネルギー開発を語るうえで欠かせない「ロシア」の国際的位置づけを、軍事戦略の点から知ることができ、大変勉強になった。

など、「ロシア」を再認識したという声が多く寄せられました。

中東地域情勢研究会は、今年設立後 2 年目を迎えました。当研究会では、刻々と変わる中東地域の情勢のモニタリングを継続することで、中東地域およびその周辺を含む「広域中東」を俯瞰し、その思想・文化と歴史的背景、また地政学的視点から、現代の国際関係・情勢情報収集、分析並びに研究を行っています。

前述の小泉助教の最新刊となります。ご興味のある方はご一読ください。

現代ロシアの軍事戦略 (ちくま新書)

目次

- はじめに——不確実性の時代におけるロシアの軍事戦略
- 第1章 ウクライナ危機と「ハイブリッド戦争」
- 第2章 現代ロシアの軍事思想
- 第3章 ロシアの介入と軍事力の役割
- 第4章 ロシアが備える未来の戦争
- 第5章 「弱い」ロシアの大規模戦争戦略
- おわりに——2020年代を見通す

